

## 母親のニーズ調査に基づく子育て支援の取り組み ～子育て自主サークルにおけるヘルスプロモーションの展開～

○赤井綾美<sup>1)</sup>, 玉木直文<sup>2)</sup>, 吉田弥代<sup>1)</sup>, 文元基宝<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>関西ウエルビーイングクラブ, <sup>2)</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学分野

(索引用語: ヘルスプロモーション, MIDORI モデル, 歯科保健行動)

口腔衛生会誌 55 (4), 2005

### 目的:

本研究では、ヘルスプロモーションの理念に基づき、子育て環境における歯科保健行動に影響を与える因子を明確にし、子育て中の親の主体的な行動変容に向けた専門的な支援のあり方を考えることを目的とした。今回、子育て中の親との情報の共有、課題の共有に向け、MIDORI モデルを活用した。

### 方法:

子育て自主サークル・ネットワークに参加する母親とその子どもを対象とした。大阪市西淀川区のネットワーク(以下: 西淀川ネット)および奈良県生駒市のネットワーク(以下: 生駒ネット)に加入するサークル代表者に本調査の主旨および内容を説明し、代表者を通じ無記名自記式の調査票の配布(H16.9), 回収(H16.10~11)を行い、249件の有効回答(回収率58.0%)を得た。母親や子どもの属性および子育ての現状、食事・おやつ・歯磨き・う蝕に関する困り事、歯に関する意識について調査を行った。その結果についてMIDORIモデルを活用し、行動環境診断および保健行動に影響を与える因子について、西淀川ネットおよび生駒ネット各群の比較を行った。

### 結果:

1. QOL(困り事)についてう蝕に関する困り事は、西淀川ネットが17%、生駒ネットが10%であった。食事に関する困り事は、両ネットに差はなく、4人に3人が困った経験を挙げていた。おやつに関する困り事は、西淀川ネットが40%、生駒ネットが55%で生駒ネットが有意に多かった。しかし、その内訳としては両ネットとも、「子どもが甘味おやつをほしがりぐずる」や「おやつを食べてご飯が食べられない」など、食事への影響が考えられる困り事を約半数が挙げていた。また、両ネットとも、半数が歯磨きで困った経験があるとしていた。2. 健康状態について「子どもにむし歯がある」と回答した割合は、西淀川ネットが15%、生駒ネットが7%であった。3. 保健行動について歯磨き行動については、両ネットとも90%以上が1日1回以上歯磨きを実行しており、約80%

が仕上げ磨きを行っていた。行動環境診断の結果、西淀川ネットでは、「毎日おやつの時間を決めている」17%、「1歳ごろ、甘味おやつの味を覚えた」81%などの甘味食摂取に関する保健行動や生活習慣に関する保健行動が生駒ネットと有意に差があり、「生活習慣比較モデル」を作成した。準備因子として甘味食品の摂取に対する意識が生駒ネットより有意に低く、実現因子としての離乳食や断乳に関する指導経験の割合も30%と有意に低かった。生駒ネットでは、「フッ化物塗布を受けたことがある」39%、「定期的にフッ化物塗布を受けている」25%、「定期的に歯科健診を受けている」28%などの保健行動が西淀川ネットよりも有意に低く、「歯科保健行動比較モデル」を作成した。フッ化物塗布に関しては、準備因子としての「フッ化物はむし歯予防に効果があると思う」87%は西淀川ネットよりも有意に低かった。健診受診に関しては、準備因子として健診受信を希望するものの、歯科医院や歯科健診に関する情報や受け皿としての実現因子が子育て環境に合致しておらず、行動変容に結びついていなかった。

### 考察:

MIDORIモデルを活用して両ネット間の比較を行うことにより、各ネットの保健行動の優先順位が明確になった。また、優先すべき保健行動に対する因子分析から、西淀川ネットでは、準備因子として甘味食摂取に関する知識の普及、強化・実因子として甘味食摂取制限に必要とされるサポートのあり方や専門的な支援に関する課題が明確になった。生駒ネットでは、準備因子としてフッ化物知識の普及、強化・実因子として歯科専門職との近接性に関する課題が明らかになった。今後、各地域の優先課題を子育て中の親と共有するとともに、教育的支援として正しい情報提供および保健行動に影響を及ぼす心理的・社会的な背景の共有化と行動変容に向けた支援プログラムの開発が必要である。また、環境的支援として、子育て支援の観点から住民が求める「かかりつけ歯科医院」のあり方への提言と、歯科専門職と接する機会や地域情報の不足などへの支援が必要であることが示唆された。